

香川労働局発表
令和4年9月30日(金)
午前8:30解禁

1. 労働市場

(1) 概況 有効求人倍率 1.52倍 (前月より0.03ポイント上昇) 全国15位

8月の香川県の有効求人倍率(季節調整値で前月比)は、1.52倍(全国15位)と前月より0.03ポイント上昇した。平成23年8月以降、133か月連続で1倍台となっている。

新規求人(原数値で前年同月比)は、産業別では、サービス業(他に分類されないもの)、情報通信業、電気・ガス・熱供給・水道業等で増加し、建設業、公務・その他、農、林、漁業で減少となり、全体で11.9%増と17か月連続で増加した。有効求人(原数値で前年同月比)は、15.3%増と16か月連続で増加した。新規求職(原数値で前年同月比)は、7.9%増と4か月連続で増加、有効求職(原数値で前年同月比)は、3.4%増と4か月連続で増加した。

公共職業安定所別の有効求人倍率(原数値)は、高松1.51倍、丸亀1.36倍、坂出1.85倍、観音寺1.56倍、さぬき0.92倍、土庄1.91倍となった。

正社員の有効求人倍率(原数値で前年同月比)は、1.19倍と0.09ポイント上昇した。正社員の新規求人は3.9%減、非正社員の新規求人は28.6%増となったことから、新規求人に占める正社員求人の割合は44.2%と前年同月より7.2ポイント低下した。

このことから、香川県の雇用情勢判断を「新型コロナウイルス感染症の影響を注視する必要があるものの、持ち直している」とした。

○ 有効求人倍率の推移(季節調整値)

	3年 8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
香川県	1.35	1.38	1.39	1.41	1.44	1.52	1.54	1.54	1.52	1.42	1.51	1.49	1.52
四国	1.25	1.25	1.27	1.29	1.30	1.33	1.34	1.34	1.34	1.34	1.36	1.38	1.39
全国	1.15	1.15	1.16	1.17	1.17	1.20	1.21	1.22	1.23	1.24	1.27	1.29	1.32

(注) 1. 新規卒者を除き、パートタイムを含む全数。 2. 令和3年12月以前の数値は、新季節指数により改訂。

3. 有効求人倍率(季節調整値)の季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による。

(2) 正社員の職業紹介状況 有効求人倍率1.19倍 前年同月を0.09ポイント上回る

正社員の有効求人倍率は1.19倍となり、前年同月を0.09ポイント上回った。15か月連続で前年同月を上回った。

項目	年 月	年 月			前年同月比、差 (%、ポイント)
		4年7月	4年8月	3年8月	
正社員新規求人数	(人)	4,032	3,449	3,588	▲3.9
正社員有効求人数	(人)	11,601	11,381	10,285	10.7
正社員就職件数	(件)	515	540	532	1.5
常用フルタイム有効求職者数	(人)	9,641	9,589	9,321	2.9
正社員有効求人倍率	(倍)	1.20	1.19	1.10	0.09
正社員充足率	(%)	12.8	15.7	14.8	0.9

(注) 1. 正社員有効求人倍率=正社員有効求人数/常用フルタイム有効求職者数(なお、常用フルタイム有効求職者にはフルタイムの派遣労働者や契約社員を希望する者も含まれているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる)

2. 充足率=正社員就職件数/正社員新規求人数×100

(3) 求人の動向

新規求人数 7,803 人 (前年同月比 11.9%増加)

パートを含む新規求人(原数値)は、前年同月比11.9%増と17か月連続で増加した。産業別では、建設業(37.4%減)、製造業(23.4%増)、情報通信業(77.6%増)、運輸業、郵便業(4.4%増)、卸売業、小売業(3.2%増)、宿泊業、飲食サービス業(12.9%増)、生活関連サービス業、娯楽業(36.9%増)、医療、福祉(8.8%増)、サービス業(81.7%増)等となった。

○産業別新規求人数の前年同月比の推移

産 業	4年3月	4年4月	4年5月	4年6月	4年7月	4年8月
農 業、林業、漁業	▲ 4.8	38.7	▲ 30.9	▲ 23.0	77.0	▲ 19.8
鉱業、採石業、砂利採取業	▲ 66.7	11.1	-	-	50.0	-
建設業	▲ 8.1	▲ 0.8	8.6	42.3	▲ 8.2	▲ 37.4
製造業	19.3	7.9	15.7	14.3	19.5	23.4
食料品製造業	18.2	13.4	8.3	▲ 7.8	40.2	26.1
繊維工業	4.2	31.1	62.5	88.2	43.2	19.5
パルプ・紙・紙加工品製造業	88.6	▲ 6.4	48.3	58.1	40.5	30.3
印刷・同関連業	125.0	22.8	46.2	178.6	114.9	2.9
プラスチック製品	178.6	61.5	0.0	71.0	6.3	0.0
金属製品	21.7	39.4	▲ 11.9	▲ 0.9	43.0	52.9
はん用機械器具	2.0	0.0	▲ 11.1	59.5	▲ 3.6	▲ 20.0
生産用機械器具	▲ 14.9	▲ 35.0	▲ 6.9	▲ 28.1	▲ 20.0	11.1
電子部品・デバイス・電子回路	0.0	▲ 81.3	100.0	200.0	▲ 12.5	300.0
電気機械器具	▲ 27.7	▲ 28.3	0.0	55.2	▲ 54.8	▲ 5.1
輸送用機械器具製造業	74.1	15.5	105.4	63.5	▲ 38.8	119.1
電気・ガス・熱供給・水道業	▲ 34.5	▲ 81.3	266.7	▲ 25.0	600.0	66.7
情報通信業	153.8	▲ 50.9	▲ 24.1	48.5	63.6	77.6
運輸業、郵便業	32.4	12.5	▲ 7.9	14.8	2.9	4.4
卸売業、小売業	10.6	31.3	5.4	20.9	28.1	3.2
卸売業	1.6	24.5	▲ 9.3	12.6	9.1	▲ 7.0
小売業	16.8	35.9	13.1	27.6	40.4	8.8
金融業、保険業	62.5	▲ 9.5	▲ 5.9	51.5	18.2	15.6
不動産業、物品賃貸業	▲ 11.4	11.4	31.7	14.1	2.9	10.8
学術研究、専門・技術サービス業	0.6	15.6	▲ 18.5	25.9	▲ 10.6	21.5
宿泊業、飲食サービス業	28.1	29.0	10.0	63.9	17.4	12.9
生活関連サービス業、娯楽業	9.5	▲ 9.6	56.7	54.3	4.3	36.9
教育、学習支援業	1.0	20.0	39.4	29.3	28.2	1.4
医療、福祉	3.4	4.9	3.2	7.9	▲ 1.3	8.8
医療業	9.9	8.5	8.0	20.0	▲ 1.3	24.1
社会保険・福祉・介護	0.1	2.6	0.1	0.6	▲ 0.3	0.3
複合サービス事業	▲ 31.7	▲ 1.9	▲ 25.0	▲ 67.9	63.4	10.9
サービス業(他に分類されないもの)	▲ 8.0	7.1	32.8	31.8	12.6	81.7
公務・その他	7.6	▲ 2.2	45.6	▲ 4.5	6.6	▲ 20.4

(注) パートタイムを含む全数。平成19年11月改定の「日本標準産業分類」に基づく区分により表章したもの。

- 建設業 県外に多くの就業場所を持つ事業所からの大量の求人をはじめ複数の事業所からの求人の募集時期がずれたことが主な減少要因となった。
- 製造業 冷凍食品等の需要が高い食料品製造業や造船業での堅調な受注が続く輸送用機械器具製造業、受注量の増加による求人等があった金属製品製造業等で求人が増加している。
- 情報通信業 情報処理・提供サービス業からのネットショップ関係の求人や菓子製造の期間限定求人がまとまって出されたことが増加要因となった。
- 運輸業、郵便業 増員等により求人を増やす事業所がみられる一方で、宅配便を取り扱う事業所での募集時期がずれたことによる減少もあって、小幅な増加にとどまった。
- 卸売業、小売業 卸売業では、前年に新規出店によるまとまった求人があった反動で減少した一方、小売業やスーパーで新規出店を視野に人材確保に動く事業所もあり増加した。
- 宿泊業、飲食サービス業 宿泊業を中心に求人が増加した。観光業やイベントの再開などにより宿泊予約が回復し、規模の大きなホテルからのまとまった求人が出されるなどしたことが増加要因となっている。
- 生活関連サービス業、娯楽業 多店舗展開するクリーニング店の求人が出される事業所で募集時期がずれたことや美容業でも求人を増やした事業所があったことが主な増加要因となった。
- 医療、福祉 医療、福祉ともに人手不足から継続的に求人を出す事業所が多い。看護師などのほか、コロナ関連の事務作業が膨大な影響で医療事務も人手不足となっている事業所もある。
- サービス業 労働者派遣業で、瀬戸内国際芸術祭秋会期に向けたスタッフの募集が大量に出されたほか、製造業でのまとまった規模の求人が複数出されたことなどにより大幅に増加した。

(4) 求職の動向

新規求職者数 3,420 人 (前年同月比 7.9%増加)

パートを含む新規求職者(原数値)は、前年同月比 7.9%増と 4 か月連続で増加した。うち、一般求職者は 6.0%増と 2 か月連続で増加、パート求職者は 11.5%増と 4 か月連続で増加した。

○職業別常用有効求人倍率

(倍)

専 門 ・ 技 術 的 職 業	1.89
事 務 的 職 業	0.63
販 売 の 職 業	2.56
サ - ビ ス の 職 業	3.28
生 産 工 程 の 職 業	2.48
輸 送 ・ 機 械 運 転 の 職 業	2.14
建 設 ・ 採 掘 の 職 業	6.25
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等 の 職 業	1.15

(注)1. 各職業は、雇用期間 4 か月未満の臨時、季節を除きパートを含む常用の原数値。
2. 職業分類は平成 24 年 3 月から改定された。

※ 職業別の求人・求職の状況について詳しくは、香川労働局ホームページの「事例・統計情報」欄掲載の「労働市場情報」をご覧ください。

(<https://jsite.mhlw.go.jp/kagawa-roudoukyoku/>)

[年齢別の動き]

パートを除く常用新規求職者は前年同月比 5.7%増と 2 か月連続で増加した。常用有効求職者は前年同月比 2.9%増と 4 か月連続で増加した。

○年齢別常用求職者の前年同月比の推移

(%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上	60 歳以上
常用 新規 求職	4 年 4 月	▲0.4	0.3	▲0.5	▲10.6	8.3	0.1	0.7
	5 月	14.4	▲1.6	22.3	11.4	26.0	9.0	▲5.3
	6 月	▲2.0	12.2	1.6	▲8.4	▲1.4	▲10.0	▲13.9
	7 月	1.6	▲1.4	▲2.7	▲4.7	5.5	11.7	15.9
	8 月	5.7	▲9.6	9.5	13.2	3.7	7.8	9.4
常用 有効 求職	4 年 4 月	▲0.9	7.2	2.7	▲6.4	2.4	▲6.1	▲7.6
	5 月	4.3	5.3	9.1	▲1.0	7.9	0.7	▲4.4
	6 月	3.8	7.6	8.5	▲1.3	7.1	▲1.0	▲6.0
	7 月	3.7	9.8	5.4	1.9	4.9	▲0.8	▲3.3
	8 月	2.9	8.5	3.0	3.3	2.8	▲0.4	▲2.0

(注)雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

[求職理由別の動き]

パートを除く常用新規求職者のうち、在職者は前年同月比 3.3%増と 2 か月連続で増加、離職者は 6.1%増と 2 か月連続で増加した。うち事業主都合離職者は 0.5%増と 7 か月ぶりに増加、自己都合離職者は 8.8%増と 2 か月連続で増加した。無業者は 19.1%増と 2 か月ぶりに増加した。

○求職理由別常用新規求職者の前年同月比

(%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上	60 歳以上
計		5.7	▲9.6	9.5	13.2	3.7	7.8	9.4
求 職 理 由	在 職 者	3.3	▲23.3	3.5	16.0	2.7	13.0	23.3
	離 職 者	6.1	▲2.8	9.2	10.1	6.5	4.2	2.8
	事業主都合	0.5	10.0	▲2.6	▲15.2	▲8.8	22.0	14.7
	自己都合	8.8	▲2.3	11.9	14.8	15.3	1.1	1.9
無 業 者	19.1	7.1	82.4	25.0	▲22.7	38.5	50.0	

(注)雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

(注)令和 3 年 9 月以降の数値より、オンライン上で求職登録した求職者数が含まれている。

(5) 就職の動向 就職件数 1,068 人 (前年同月比 0.3%増加)

パートを含む就職件数は、前年同月比 0.3%増と 3 か月連続で増加した。うち一般は 3.2%減と 3 か月ぶりに減少、パートは 6.0%増と 4 か月連続で増加した。

パートを含む新規就職率は 31.2%で、前年同月を 2.4 ポイント下回った。

○就職件数の前年同月比 (%)

	全 数	一 般	パート		
			44 歳以下	45 歳以上	
4 年 4 月	▲15.6	▲20.7	▲20.4	▲21.2	▲8.5
5 月	▲1.8	▲6.9	▲11.7	▲0.3	4.4
6 月	7.0	9.7	2.6	19.9	3.9
7 月	6.5	0.8	▲6.2	11.9	14.2
8 月	0.3	▲3.2	▲2.5	▲4.0	6.0

(注) 令和 3 年 9 月以降の数値より、オンライン上で求職登録した求職者がハローワークインターネットサービスの求人に直接応募した就職件数が含まれている。

(6) 雇用保険関係 受給者実人員 3,709 人(前年同月比 0.5%減少)

[受給者実人員の動き]

受給者実人員は、前年同月比 0.5%減と 13 か月連続で減少した。

○年齢別受給者実人員 (人、%)

	受給者実人員	前年同月比
年 齢 計	3,709	▲0.5
29 歳以下	556	4.3
30～44 歳	981	▲0.1
45～59 歳	1,285	▲4.5
60 歳以上	887	2.5
44 歳以下	1,537	1.5
45 歳以上	2,172	▲1.8

[事業主都合解雇者の動き]

事業主都合解雇者数は、前年同月比 38.5%増と 2 か月連続で増加した。

建設業は 2 か月ぶりに減少、製造業は 8 か月ぶりに増加、運輸、郵便業は 5 か月ぶりに増加、卸売・小売業は 2 か月ぶりに減少、宿泊業、飲食サービス業は 2 か月ぶりに増加、医療、福祉は 4 か月連続で増加、サービス業は 5 か月ぶりに増加した。

○産業別事業主都合解雇者 (人、%)

	解雇者数	前年同月比
産 業 計	169	38.5
建設業	12	▲7.7
製造業	38	8.6
運輸、郵便業	12	100.0
卸売、小売業	20	▲16.7
宿泊、飲食サービス業	23	283.3
医療、福祉	23	43.8
サービス業	17	54.5

(注) 1. 「高年齢+特例」被保険者を含む。

2. 平成 19 年 11 月改定の「日本標準産業分類」を平成 21 年 4 月より適用、集計したもの。

2. 経済情勢（2022年9月12日 日本銀行高松支店「香川県金融経済概況」より抜粋）

概況

- 香川県内の景気は、一部に供給制約による下押しの影響がみられるものの、全体としては持ち直しつつある。

すなわち、設備投資は持ち直している。個人消費は、一部に感染症再拡大の影響がみられるものの、基調としては持ち直しつつある。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は減少している。こうした中、企業の生産は横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに改善に向かいつつある。

実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。

設備投資は、持ち直している。

6月短観における設備投資（全産業）をみると、2022年度は、前年を上回る計画となっている。

個人消費は、一部に感染症再拡大の影響がみられるものの、基調としては持ち直しつつある。

大型小売店の売上は、一部に感染症再拡大の影響がみられるものの、基調としては持ち直しつつある。

乗用車販売は、横ばい圏内の動きとなっている。

家電販売は、底堅く推移している。

住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。

公共投資は、減少している。

- 企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

化学は、振れを伴いつつも、高めの水準で推移している。金属製品、窯業・土石は、持ち直している。汎用・生産用機械は、持ち直しの動きがみられる。輸送機械、非鉄金属、食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は、弱含んでいる。

- 雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに改善に向かいつつある。

- 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、2%程度のプラスとなっている。